

平成31年度（令和元年度）学校評価自己評価表

福島県立福島南高等学校

学校経営運営ビジョン		自己点検（実施状況と評価）				アンケート集計結果			分析と課題
重点努力事項	4段階評価 4◎：80%以上達成 3○：60%以上達成 2△：40%以上達成 1▼：20%以上達成	評価点	平均	判定	4段階評価				
					生徒	保護者	教職員		
文理科目標	1 難関大学、国公立大学等への合格者の増加 ・国公立大学等の合格者数の増加を目指します。 ・センター試験の受験を奨励するとともに、各種試験の受験指導に努めます。	進路決定者数(2/5現在):国公立大3,私大18,私短2,看医専5,専門3,就職0,未定44 ・サポート講座や志願理由書指導、面接・小論文指導など多様な進路実現の取り組みを行った。 ・情報提供や苦手分野の把握を行い、課題に取り組みませた。 ・新大学入試制度に向けた情報収集及び生徒への速やかな指導を行うことができた。	3.0	3.0	○	3.1	3.2	2.7	・重点努力事項の実現に向けて、国公立大学や難関大学希望者に対して意識づけを行い、生徒同士で高めあう雰囲気づくりを早くから醸成する。 ・新入試制度対応のため、「考える」学習態度を各部、学年、教科と連携して身に付けさせ、求められる思考力・判断力を育成する。
	2 総合的、専門的な学習の深化 ・授業やサイエンスセミナー等を通して、文理の学問的な探究心を伸ばします。	・「南高へ行こう」や「サイエンスセミナー」で、総合的な探究の発表、ポスターセッションを行い大学の先生による講評と指導をいただいた。 ・研究のまとめや発表指導を、担任と多くの教科担当者とともに実施することができた。	3.0						・英検の受験については、2級合格者の増加のため、二次試験の受験指導充実を図ることを目的に、学年ごとに受験時期を分散させることを検討する。 ・British Hills研修は、今年度は、1年と2年で難易度の異なる内容で実施した。次年度は、今年の成果を踏まえ、内容を吟味して1年と2年で難易度の異なる授業を依頼する。 ・KGGS姉妹校交流事業は応募者が定員に達しなかった。原因を究明して、対策を講じたい。また、KGGSの福島訪問に向けて具体的な実施内容検討を進める。
国際文化科目目標	1 語学力を生かした難関大学等への合格者の増加 ・難関大学等の合格者数の増加を目指します。 ・英検2級の合格者を増やし、仏検、GTEC、TOEIC等に積極的に挑戦させます。	進路決定者数(2/5現在):国公立大2,私大21,公短1,私短2,看医専1,専門3,未定9 ・英検第2回目までの合格者は、準1級1名、2級14名、準2級28名であった。二次試験対策の面接指導を行い、二次合格率は2級64%、準2級93%であった。 ・仏検の合格者は、5級24名、4級4名であった。	3.0	3.5	○	3.5	3.4	3.1	・British Hills研修では体験学習を通して英国文化に触れ、英語学習意欲を高めることができた。 ・KGGS姉妹校交流は、事前事後研修を含め大変有意義な経験となった。参加した生徒のうち3名が県高校英語プレゼンテーションコンテストに出場し、体験を発表した。 ・国際理解セミナーではNPO法人の方を招き、ジェンダー平等を国際的視野で学んだ。 ・「東南アジア青年の船」との交流を通して、異文化を理解したり、英語で意思疎通を図ったりすることができた。
	2 国際理解教育や国際交流事業の充実 ・国際理解セミナーやKGGS姉妹校交流などの充実に努めます。	・地域づくりセミナー・年金セミナー・租税教室など外部講師を招き、有意義な学習の機会を得ることができた。 ・ビジネスコミュニケーション検定ではほぼ全員合格を果たした。また、社会人としてのより実践的な学習を実施することにより、ビジネス社会に必要な知識・技術を身に付けさせることができた。	4.0						・全商、日商の簿記検定をはじめとして、出題区分の改定や出題形式の多様化など、検定試験の難易度が上がってきている。その対策を検討する必要がある。 ・次年度も生徒の進路実現のため学科一丸となり、よりきめ細かい指導を図りたい。 ・次年度も高度資格取得に取り組むとともに、外部講師を効率よく活用して社会で活躍できる生徒を育成する。 ・今年度は新たにライフキャリアセミナーも実施し講評であった。次年度も生徒の社会性を高めるための積極的な外部講師活用を図っていききたい。 ・社会において主体的・合理的に活躍できる生徒を育てるため、次年度も様々な形でアクティブラーニングを取り入れた活動を実施したい。
情報会計科目目標	1 高度な資格取得を生かした就職、進学合格者の増加 ・高度な専門資格を取得させ、就職、公務員、国公立大学に合格させます。 ・商業関係の各種競技大会へ積極的に参加させ、全国大会出場を目指します。	進路決定者数(2/5現在):国公立大3,私大15,私短4,看医専1,専門10,公務員9,就職24,未定9 ・情報処理検定や簿記検定では、年間計画の通り検定前に養成講座を実施し、例年並みの合格者をだすことができた。 【9月】全商情報処理1級ビジネス情報部門65名※1月を含む(昨年度67名)、2級プログラミング部門30名(昨年度74名/(2クラス)) 【11月】日商簿記検定2級6名(昨年度4名)、3級35名(昨年度59名/(2クラス)) 【1月】全商簿記1級43名(昨年度53名)、全商情報処理1級プログラミング部門30名(昨年度78名/(2クラス))	3.0	3.0	○	3.6	3.4	3.3	・基本的な生活習慣の確立は概ねできつつあるが、次年度も引き続き全職員で取り組む。 ・トイレ使用マナーについては指導の徹底を図り、ごみの分別については継続的指導に努める。 ・次年度も全職員でよりきめ細やかな観察を行う。学校生活アンケートについては方法を検討し改善を図る。
	2 地域産業を担う人材育成教育・事業の充実 ・地域づくりセミナー等を通して課題意識を高めます。	・図書館だよりは、担当生徒が工夫し、多くの生徒にとって楽しめる内容となった。ワークショップやブックカフェには多くの参加者が入館した。また、夏季休業中には充実した研修旅行を実施できた。(図書視聴覚部) ・生徒保健委員は、学校保健委員会において立派な健康調査アンケートの発表を行った。(厚生部) ・最上級生として、各種活動に積極的に取り組むことができた。(3学年)	3.0						・定期的な交通安全指導を行うことで、自転車事故の減少に効果をあげたが、今後とも事故防止の注意を行い、生徒の意識向上に努めたい。 ・虫歯については、リスクを理解させ意識改革を進める。また、個別指導を行う。 ・思春期講話については、実施時期とテーマについて、有意義な講話になるよう進める。 ・i-checkは、研修を行い、より有効に活用していく。
共通目標	1 生徒の生活習慣を確立させ、規範意識を高めます ・あいさつや制服の正しい着こなし、遅刻防止、全員清掃等の生活習慣を確立させます。 ・いじめ等の非行防止を徹底します。	・遅刻者については、1年27,2年97,3年134,延べ人数258と目標とした延べ人数200以下を超えており、学年が進むにつれて増加している。(生徒指導部) ・トイレの使用について適切でないところがあったが、ごみの分別はよくなるようになった。(厚生部) ・6月9日11日に「学校生活アンケート」を実施した。アンケートの実施や生徒からの情報を含めた観察により、いじめの認知と解決に向けて取り組んだ。(生徒指導部)	3.4	3.3	○	2.6	2.6	2.5	・各種企画において参加者の感想など集め、以降の検討材料とする。来年度も生徒の意見を反映した活動を取り入れ、生徒達が自信を持って活動できるよう支援していく。 ・生徒が実施した調査研究の発表の場を学校公開時等でも設けるように検討する。 ・自覚や責任感に課題のある生徒もいるため、自覚や責任感を育てる指導の充実に努める。
	2 生徒の自主的活動により、学校生活の充実に努めます ・部活動の自主的な活動を充実させます。 ・委員会活動を充実させます。	・自転車事故については、前期には7件と昨年度に比べ増加したが、後期は減少した。(生徒指導部) ・虫歯のある生徒は41名と少ないが、治療済みの生徒は47%である。(厚生部) ・1・2年生対象の「思春期講話」を実施し、学校生活の緊張が解け前向きになれると好評であった。講話前のアイスブレイクも効果的であった。(教育相談部) ・i-check性格検査を導入し、職員研修会を実施して分析について職員間で共有した。(教育相談部)	3.4						・スマホ利用時間が平日1時間以上の生徒が73%程度であることから、家庭学習時間へ切り替えるよう指導する。 ・進路希望実現に向け、自ら動き、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・サイエンスセミナーにおいて、実践的なセミナーを継続的に計画していく。
	3 生徒の安全・防災意識と健康意識を高めます ・交通安全意識を高め、自転車事故等の絶無を目指します。 ・教育相談や保健指導の充実に努め、生徒が自らの健康を保持推進する力を高めます。	・一日平均入館者数(4月～1月)は44.0人、一人あたりの年間貸出冊数(4月～1月)は4.4冊であった。入館者数は昨年度より増加したが、一人あたりの年間貸出冊数は減少した。目標とする一人あたりの年間貸出冊数4.7冊には届かなかった。(図書視聴覚部) ・長期休業中に課題図書を読書を奨励した。(1学年,2学年)	3.6						・来年度は、とうほうみんなの文化センターを会場として、音楽「Folk'n Roll Japan」(新感覚民謡ユニット Neo Ballad)の予定である。運営会社や会場、校内各部署との連携を密にし、準備をすすめていきたい。 ・British Hills研修は、1年と2年で難易度の異なる授業を依頼し、より充実を図る。 ・KGGS姉妹校交流事業は応募者が定員に達しなかった。原因を究明して、対策を講じた。
	4 生徒の自ら学ぶ態度を育成します ・家庭学習や朝自習に積極的に取り組み、自学自習の態度を養います。 ・総合的な学習の時間や課題研究での探究的な学習への支援を充実します。	・芸術鑑賞会の事後アンケートでは、生徒、教員ともに概ね好評だった。(図書視聴覚部) ・British Hills研修やKGGS姉妹校交流では、事前学習、事後研修も含め、様々な体験学習を通して、有意義な経験にすることができた。(国際文化科) ・校内レジャーコンテストを通して英語を話し、また、聞くこととする態度を養うことができた(国際文化科)	3.0						・来年度は、とうほうみんなの文化センターを会場として、音楽「Folk'n Roll Japan」(新感覚民謡ユニット Neo Ballad)の予定である。運営会社や会場、校内各部署との連携を密にし、準備をすすめていきたい。 ・British Hills研修は、1年と2年で難易度の異なる授業を依頼し、より充実を図る。 ・KGGS姉妹校交流事業は応募者が定員に達しなかった。原因を究明して、対策を講じた。
	5 読書活動と図書館利用を推進します ・読書のPRの工夫、授業やHR等との連携を進めて、図書館利用や読書量の増加を図ります。	〔各学科の目標2参照〕	3.0						〔各学科の目標2参照〕
	6 体験活動を通して豊かな情操や国際理解を養います ・芸術鑑賞会や修学旅行等の体験活動を通して、生徒の情操を高め、国際的な視野を広めます。	・学校全体で授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、授業改善を図った。(教務部) ・教科担当者とともに予習復習の習慣化と積極的に授業へ取り組む指導を行った。課題に熱心に取り組む生徒が多い。(1学年)	3.7						・低学年からの進路意識の向上をさらに追求する。 ・各種課外授業の内容を創意工夫し、5教科バランスの取れた学力を身に付けさせる。 ・明確な進路目標を設定させ、その目標に向け情報収集と実力養成を図る。 ・オープンキャンパスへの参加や学びの森などの行事を通して、進路意識を高める。
	7 各学科の特色を生かして創造性を養います ・各学科の特色ある教育活動を充実させます。 ・各学科の学習成果を共有させ視野を広げます。	進路決定者数(2/5現在):国公立大8,私大54,公短1,私短8,看医専7,専門19,公務員9,就職24,未定62 ・生徒の進路指導室利用は活発で、進路相談も効果的に行われた。(進路指導部) ・課外、朝自習ともに進路希望実現に向けて落ち着いた真剣に取り組むことができた。(3学年) ・任意参加の課外や資格取得の課外に熱心に取り組む姿勢が身についた。(2学年) ・大学訪問や進路講演会により進路に対する意識を高めることができた。(1学年)	3.2						・業者の映像資料を活用して、アクティブラーニングの手法について引き続き研修を行い、授業の様々な場面で生かせるようにする。
	8 授業等の充実に努め、学力向上を図ります ・基礎基本を定着させ、応用力を高めます。 ・教員相互の授業参観、授業研究を充実し、教科指導力の向上に努めます。	進路決定者数(2/5現在):国公立大8,私大54,公短1,私短8,看医専7,専門19,公務員9,就職24,未定62 ・生徒の進路指導室利用は活発で、進路相談も効果的に行われた。(進路指導部) ・課外、朝自習ともに進路希望実現に向けて落ち着いた真剣に取り組むことができた。(3学年) ・任意参加の課外や資格取得の課外に熱心に取り組む姿勢が身についた。(2学年) ・大学訪問や進路講演会により進路に対する意識を高めることができた。(1学年)	3.2						・業者の映像資料を活用して、アクティブラーニングの手法について引き続き研修を行い、授業の様々な場面で生かせるようにする。
	9 進路希望を100%実現します ・進路実現の実力を養成する課外学習、模擬試験、検定試験にも積極的に取り組みさせます。 ・キャリア教育を充実し、保護者との連携を深め、きめ細かい進学・就職指導を実施します。	進路決定者数(2/5現在):国公立大8,私大54,公短1,私短8,看医専7,専門19,公務員9,就職24,未定62 ・生徒の進路指導室利用は活発で、進路相談も効果的に行われた。(進路指導部) ・課外、朝自習ともに進路希望実現に向けて落ち着いた真剣に取り組むことができた。(3学年) ・任意参加の課外や資格取得の課外に熱心に取り組む姿勢が身についた。(2学年) ・大学訪問や進路講演会により進路に対する意識を高めることができた。(1学年)	3.2						・業者の映像資料を活用して、アクティブラーニングの手法について引き続き研修を行い、授業の様々な場面で生かせるようにする。